中陸北　（第3種郵便物認可）

千代尼の句 読み解いた

珠洲 住職・西山さん、書籍執筆

珠洲市飯田町の真宗大谷派西勝寺住職で、民俗学研究家の西山郷史さん(七〇)が、松任（現・白山市）で生まれ育った俳人千代尼について、信心との関係からつづった著書「妙好人 千代尼」を執筆した。

千代尼は一七〇三年に生まれ、千代、千代女とも呼ばれる。五十二歳の時に剃髪し、七十三歳で亡くなるまで、「朝顔や つるべ取られて もらい水」「蜻蛉釣り 今日はどこまで 行ったやら」など多くの句を残し、高く評価されている。

大学時代から俳句に親しんできた西山さんは、卒業後、県内の高校で教壇に立ち、国語を教え、俳句との関わりも持ち続けた。一九九一年に西勝寺住職に転身し、法話のほか、講義や講演の機会も増えたが、千代尼に触れた書があまり多くなかったため、自身で執筆することにしたという。

西山さんによると、妙好人とは、信心の生活に生きる門信徒の手本となる人たちのこと。西山さんは「書では、千代尼の句を、信心に生きた人の句として丁寧に読み解いた。千代尼を通しての真宗入門書でもある」と話している。

「妙好人 千代尼」は、B6判二百四十八ページ。発行所は西勝寺内の臥龍文庫。千二百円（税別）。来年一月半ばに法蔵館（京都市）から発売される予定。

（近江士郎）

千代尼に関する書を執筆した西山郷史さん＝珠洲市飯田町で